



綠蔭隨想抄 (四)

波邊 何鳴

大噴かす工夫眺めぬ露草... 露草の露草の露草の露草...

和歌 小川郷 草野收信... 生活の環境を歌ふ...

臨豚販賣 田町 三二三三屋... ハムよりうまい...

高山英九郎 (176) 市施長春書... 亡命の旅 (二)...



高山英九郎の書斎

元 俳句の秀題は絶対... 西遊記、もので、時代の...

松崎 幽泉... 田の畦を... 友と歩みぬ露草花夜に...

我が家の庭も夏深き水ぬ... 五月雨を... 見れば...

貸借対照表 (昭和五年五月三十一日現在) 資本金 100,000...

業株水産工業株式會社 取締役 小野 晋平... 監査役 鈴木 伊太郎...

阿部石炭商店 電話 二二三七番 平 前

コークス大々的 値下断行 東京瓦斯コークス...

小名濱商事株式會社 出張所 電話 六〇三番...

貸地廣告 平町郡役所より税務署附近の新開地...

セイコー時計の値下断行 景品は特賣 金解禁... 國産品の愛用...

大谷時計病院 特約店 電話 十九番

市川玉之助大一座 歌舞伎 涼しい劇場

平町聚樂館 御一名金十銭

松村科 皮膚科 泌尿科 外科

元禄 大販賣店 山野邊藥局

阿部石炭商店 電話 二二三七番

コークス大々的 値下断行

小名濱商事株式會社 出張所

貸地廣告

セイコー時計の値下断行 景品は特賣

大谷時計病院 特約店

松村科 皮膚科 泌尿科 外科

元禄 大販賣店 山野邊藥局

阿部石炭商店 電話 二二三七番

コークス大々的 値下断行

小名濱商事株式會社 出張所

貸地廣告

元の小田炭礦坑内に出水

坑夫五名惨死

漸く虎口を遁れた十六名

出水量は二百立方

石城郡北野町八坂、出水の爲に崩壊した元小田炭礦坑内、二百以上の所得を受けて、秋原炭礦坑元小田炭礦坑にまで掘り進んだ。結果非常なる壓力の爲に、坑内は崩壊し、坑夫五名が惨死した。崩壊した坑内には、坑夫十六名が生き残った。崩壊した坑内には、坑夫十六名が生き残った。崩壊した坑内には、坑夫十六名が生き残った。

苦心の酒造税

八萬八千圓ほど減つた

平稅務署の査定

石城郡北野町、酒造税の査定は、八萬八千圓ほど減つた。平稅務署の査定は、八萬八千圓ほど減つた。平稅務署の査定は、八萬八千圓ほど減つた。

街頭に進出する

職業婦人の収入

千二百圓を越すもの稀

平町の實狀調へ

平町地方、職業婦人の収入は、千二百圓を越すもの稀。平町の實狀調へ。平町の實狀調へ。平町の實狀調へ。

唱歌演奏會の所感

於平第一小學校

唱歌演奏會の所感。於平第一小學校。唱歌演奏會の所感。於平第一小學校。唱歌演奏會の所感。於平第一小學校。

現代劇「擊滅」の梗概

今館三日より上映

現代劇「擊滅」の梗概。今館三日より上映。現代劇「擊滅」の梗概。今館三日より上映。現代劇「擊滅」の梗概。今館三日より上映。

陳情

町長一行出陣

陳情。町長一行出陣。陳情。町長一行出陣。陳情。町長一行出陣。陳情。町長一行出陣。

野球試合

平第一對第三

野球試合。平第一對第三。野球試合。平第一對第三。野球試合。平第一對第三。野球試合。平第一對第三。

來月一日までには

平局お引越す

來月一日までには。平局お引越す。來月一日までには。平局お引越す。來月一日までには。平局お引越す。

完成した新局舎

電話の飲番六萬餘口

完成した新局舎。電話の飲番六萬餘口。完成した新局舎。電話の飲番六萬餘口。完成した新局舎。電話の飲番六萬餘口。

石城の在庫米

千五百俵の減少

石城の在庫米。千五百俵の減少。石城の在庫米。千五百俵の減少。石城の在庫米。千五百俵の減少。

平地方の暑さ

氷屋が大喜び

平地方の暑さ。氷屋が大喜び。平地方の暑さ。氷屋が大喜び。平地方の暑さ。氷屋が大喜び。

四倉如來寺

面目一新

四倉如來寺。面目一新。四倉如來寺。面目一新。四倉如來寺。面目一新。四倉如來寺。面目一新。

平町債一萬圓

嚴重な督促

平町債一萬圓。嚴重な督促。平町債一萬圓。嚴重な督促。平町債一萬圓。嚴重な督促。

平町人事

平町第一小學校

平町人事。平町第一小學校。平町人事。平町第一小學校。平町人事。平町第一小學校。

特賣!!

たひら正宗 福島縣清酒品評會
一等賞受賞
花 春 優等賞受賞
油 鹽 山崎合名會社
電話一〇番

眼鏡は

皆様の御眼に
ピッタリ合つた
時計は
是非當店にて

電話番號が

變りましては
電話八六〇番
平町新田町
柳

父勇平儀

過般急死の際に早
速御用詞を賜り難く御厚禮申上候
追つて非儀は六日午後二時自宅出棺
常務院に於て御葬可申候
昭和五年七月三日
石城郡平運村

父吉田三郎儀

永々病氣之
處十月二日午前四時死去知候に付
此段謹告仕候
追即、五日午後二時自宅出棺
昭和五年七月三日
平町宇野川町十六
嗣子 吉田喬二
外親戚一同

松本儀平

外親戚一同

父勇平儀

過般急死の際に早
速御用詞を賜り難く御厚禮申上候
追つて非儀は六日午後二時自宅出棺
常務院に於て御葬可申候
昭和五年七月三日
石城郡平運村